大阪大学基礎工学部·H26 数学

作成者:sei0o (Twitter: @sei0o)

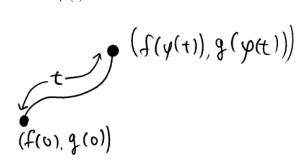
問題1

(1)

$$\begin{split} l\left(b\right) &= \int_{0}^{b} \sqrt{\left(\frac{df}{ds}\right)^{2} + \left(\frac{dg}{ds}\right)^{2}} ds \\ &= \int_{0}^{b} \sqrt{\left(1 - \frac{\cosh^{2}s - \sinh^{2}s}{\cosh^{2}s}\right) + \left(-\frac{\sinh s}{\cosh^{2}s}\right)^{2}} ds \\ &= \int_{0}^{b} \frac{\sinh s \sqrt{1 + \sinh^{2}s}}{\cosh^{2}s} ds \\ &= \int_{0}^{b} \frac{\sinh s}{\cosh s} ds \\ &= \int_{1}^{\cosh b} \frac{1}{u} du \left(\cosh s = u \right) \mathcal{E} \stackrel{\text{ind}}{=} \mathcal{E} \\ &= \log \cosh b \end{split}$$

(2)

問題の条件を図示すると次の通り。 $\varphi(t)$ が曲線のパラメータとなる。



(1) より、経路の長さについて $\log \cosh \varphi(t) = t$ が成り立つから、これを変形して、

$$\cosh \varphi = e^t$$

$$(e^{\varphi})^2 - 2e^t \cdot e^{\varphi} + 1 = 0$$

$$e^{\varphi} = e^t \pm \sqrt{e^{2t} - 1}$$

$$\varphi(t) = \log(e^t \pm \sqrt{e^{2t} - 1})$$

問題 2

(1)

$$\vec{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$
 とすると、 $t\vec{x} \begin{pmatrix} 5 & 1 \\ 1 & 5 \end{pmatrix} \vec{x} + c = 0$

(2)

固有値を λ とおいて、

$$|A - \lambda E| = \begin{vmatrix} 5 - \lambda & 1 \\ 1 & 5 - \lambda \end{vmatrix}$$
$$= (\lambda - 6)(\lambda - 4) = 0$$
$$\therefore \lambda = 4, 6$$

(3)

$$\begin{pmatrix} 5 & 1 \\ 1 & 5 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 6 \\ 6 \end{pmatrix}$$
 より、 $\lambda = 6$ に対応する固有ベクトル $\vec{x_1} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} a \quad (a \neq 0)$
$$\begin{pmatrix} 5 & 1 \\ 1 & 5 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 4 \\ -4 \end{pmatrix}$$
 より、 $\lambda = 4$ に対応する固有ベクトル $\vec{x_2} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix} b \quad (b \neq 0)$
$$P = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 1 & -1 \end{pmatrix}$$
 とすると、 P は直交行列で、 $B = P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 6 & 0 \\ 0 & 4 \end{pmatrix}$

なお、固有ベクトルは固有方程式を用いて求めてもよい(2次行列や0が多い場合は上記の方法が便利)。

(4)

(1) で得た式に $\vec{x'}$ を代入して、

$$t(P\vec{x'})AP\vec{x'} + c = 0$$

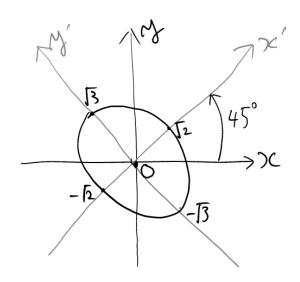
$$t\vec{x'}tPAP\vec{x'} + c = 0$$

$$t\vec{x'}B\vec{x'} + c = 0(P^{-1} = {}^{t}P)$$

$$6(x')^{2} - 4(y')^{2} - 12 = 0$$

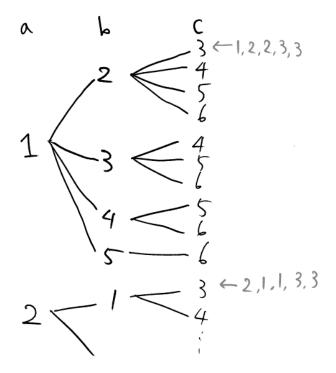
$$\left(\frac{x'}{\sqrt{2}}\right)^{2} + \left(\frac{y'}{\sqrt{3}}\right)^{2} = 1$$

この式は楕円を表す。ここで、 $P=\frac{1}{\sqrt{2}}\begin{pmatrix}1&1\\1&-1\end{pmatrix}=\begin{pmatrix}\cos 45^\circ&-\sin 45^\circ\\\sin 45^\circ&\cos 45^\circ\end{pmatrix}$ で、これは回転行列。 $\begin{pmatrix}x\\y\end{pmatrix}=P\begin{pmatrix}x'\\y'\end{pmatrix}$ だから、図示すると次の通り。



問題 3

3 種類の出る目を (a,b,c) とすると、5 回で出る目の組み合わせは (i) a,b,b,c,c か (ii) a,a,a,b,c の二通 り。(i) で (a,b,c) の選び方を図示すると次の通り。



ここで、b と c (両方とも 2 回出る)を入れ替えたものは区別しないことに注意する。たとえば、(a,b,c)=(1,2,3) と (1,3,2) は区別しない。図より、a=1 の場合は 10 通り。 $a\geq 2$ も同じであるから、(i) での (a,b,c) の選び方は計 60 通り。(ii) の場合も同様に b,c (両方 1 回出る)を区別しないから、やはり選び方は

60通り。

(1)

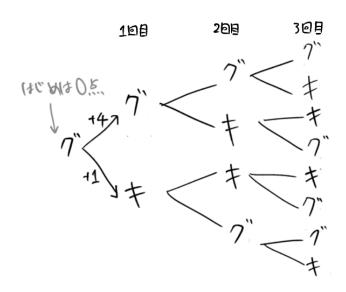
まず (a,b,c) の並べ方を考える。重複順列と見て、同じ文字に区別を設け (i) a,b_1,b_2,c_1,c_2 (ii) a_1,a_2,a_3,b,c とすると、並べ方は (i) $\frac{5!}{2!2!}$ 通り (ii) $\frac{5!}{3!}$ 通りとなる。このように a,b,c を並べたところに実際の出る目を入れていけばいいから、答えは $60 \times \frac{5!}{2!2!} + 60 \times \frac{5!}{3!} = 3000$ 通り。

(2)

順序を区別しない選び方だけを考えればいいので、60+60=120 通り。

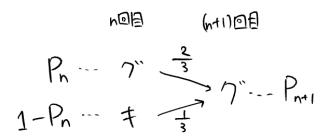
(3)

偶奇に注目して樹形図を描くと次のようになる(偶数を「グ」、 奇数を「キ」と略記)。上への移動は3以上の目が出た場合、下への移動は2以下の目が出ることに対応する。



(a) 樹形図より、
$$P_1=\frac{2}{3}$$
 また、 $P_3=\left(\frac{2}{3}\right)^3+3\left(\frac{2}{3}\right)\left(\frac{1}{3}\right)^2=\frac{14}{27}$

(b) 前後の関係は次のように表される。



これを漸化式に起こす。

$$P_{n+1} = \frac{2}{3}P_n + \frac{1}{3}(1 - P_n)$$
$$= \frac{1}{3}P_n + \frac{1}{3}$$

(c)

(b) で得た二項間漸化式を解く。特性方程式 $\alpha=\frac{1}{3}\alpha+\frac{1}{3}$ を解くと $\alpha=\frac{1}{2}$ を得る。これを使って漸化式を変形すると、

$$P_{n+1} - \frac{1}{2} = \frac{1}{3} \left(P_n - \frac{1}{2} \right)$$

$$P_n - \frac{1}{2} = \left(\frac{1}{3} \right)^n \left(P_0 - \frac{1}{2} \right)$$

$$= \left(\frac{1}{3} \right)^n \times \frac{1}{2}$$

$$\therefore P_n = \frac{1}{2} \left\{ 1 + \left(\frac{1}{3} \right)^n \right\}$$